

## 歯科診療所における管理栄養士の活動と役割

医療法人たかぎ歯科管理栄養士  
手塚文栄 Fumie Tezuka

1980年女子栄養短期大学卒業。保健所、フリー栄養士活動、口腔センター土浦を経て、2005年医療法人たかぎ歯科入職。准看護師、摂食嚥下リハビリテーション栄養専門管理栄養士、「歯科と栄養 二足のワラジーの会」代表。

### 歯科での栄養士活動の現状

かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の中には、管理栄養士・栄養士の必要性を感じ、経営をやりくりして経験者を雇用しているところがある。また、人手不足解消に悩む歯科診療所では、医療系で栄養の知識もある管理栄養士が注目され始め、採用を始めている。一般社団法人日本老年歯科医学会が2017年に行った管理栄養士・栄養士を雇用している40地域の一般的な歯科診療所を対象にした調査<sup>1)</sup>では、60名が東京と大阪以西に点在していた。入職動機は、「歯科と栄養の関わりに興味があった」、「予防医療に関わりたい」、「口腔機能に興味があった」、「病院より歯科の方が継続して患者と関われそうだから」と、希望を持って入職している。2年以内に半数が転職する一方で、5年以上の勤務者は2割いた。

栄養食事指導の必要な患者への相談対応は歯科疾患、摂食嚥下障害に関して行っているが、歯科病院でも歯科診療所でも管理栄養士が診療報酬を得られないため、年間4,000件以上が算定されていない。歯科診療所としても栄養食事指導料を認めてほしいところだが、管理栄養士の傷病者への栄養食事指導は主治の医師の指導を受けなければならないという規定が栄養士法にあるため、簡単にはいかない。環境は厳しいが、歯科スタッフの協力を得ながら、管理栄養士の資格を生かした活動が始まっている。

### 小児歯科での取り組み事例

小児歯科の領域では、一般的には、管理栄養士は歯科助手を兼業しながら、食育に取り組んでいる(図1、図2)。

神奈川県医療法人社団こころははる歯科クリニックでは、管理栄養士が保育所勤務の経験を生かした食育



図1 わんわんだッシュ  
噛む力を育てる食育講座。ハイハイは口唇閉鎖力、食具の操作性を向上させる(医)たかぎ歯科。

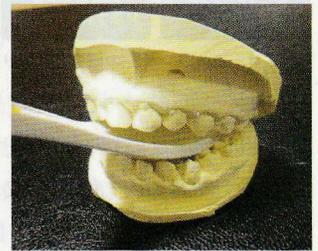


図2 介助方法を歯科模型で説明  
「子どもの口はこんなに小さいです。スプーンを奥に入れたらどうなる?」と、実際の歯科模型と被介助体験で、即効性のある介助技術を伝えている(医)たかぎ歯科。

講座で成果を上げ、院内に食育用キッチンができ、管理栄養士も4名に増員された。また、滋賀県の医療法人かがやき歯科クリニックと神奈川県医療法人社団湘耀会Ken歯科では、歯科診療所のコンサルテーションを行っている管理栄養士の田中美智子氏を招聘してスタッフ教育を行い、管理栄養士を中心に、歯科医師、歯科衛生士、保育士等の多職種で歯科ならではの離乳食講習会を開いている。参加者も増え、見学者も全国から訪れ、地元から管理栄養士に講演依頼もある。当初、両クリニックの管理栄養士は歯科業務が中心だったが、栄養士業務が新卒1年目5%から2年目20%、3年目30%と増加しつつある。また、現在、口腔機能発達不全症にも関わり始めている。こうした変化について田中氏は、「歯科で活躍するために最も必要なのは、院長と歯科スタッフの理解」だと言う。現在、「歯科で管理栄養士が活躍するための実践塾」(主催:株式会社デンジョイ)を監修しているが、院内の理解を高めるため、経営者も参加する仕組みを取り入れている。

### 在宅高齢患者への取り組み事例

在宅高齢者で移動が困難な場合、う蝕や歯周病、義歯